

本書は当研究所の平成二年度特別合同研究プロジェクトの成果である。今回取り上げた課題は、『発展途上国の環境問題』である。オゾン層の破壊や温暖化に代表される地球規模の環境問題の顕在化により、この問題は近年世界中の関心・議論を呼び起こしている。一九九二年六月ブラジルで開催予定の国連環境開発会議を前に南北間の対立、さらには先進国間の立場の違いもこのところ鮮明なものとなってきている。このような状況を踏まえ環境問題に関心を持つ所内の有志が集い本プロジェクトを発足させた。その多くは『アジ研ニュース』一九九〇年一・二月号の特集「第三世界の環境問題」に執筆したメンバーであるが、その折りの成果を踏まえこれを発展させたものが本書である。したがって一年プロジェクトとはいえ本書が成るまでには足かけ二年余りの月日を要したことを記しておきたい。また、本書のごく一部は上記『アジ研ニュース』からの再録であることも申し添える。

執筆に参加した当研究所職員・OBは三十一名である。これまで主として地域研究、開発研究にいそしんできた人々であり、環境問題の専門家ではない。そこで主として自然科学系の外部専門家多数を招聘しご教示を得た。また、特別合同研究プロジェクトとしては異例ながら五名の外部専門家に執筆もお願いした。外部専門家のご指摘の中で注目すべき点の一つは、多くの方が社会科学の視点からの研究の進展を求められたことである。一例をあげよう。「熱帯林の破壊に関しては熱帯材貿易、貧困、土地所有制度、所得分配等の社会・経済的背景の分析こそ求められて

いる。現在の熱帯材の国際価格は必ずしも再植林のコストを反映したものとはなっていない。また、貧しい土地無し層の存在を放置していたのでは、植林等の対策の効果も半減してしまっただろう。国家が法律で森林を囲い込んだところで、貧しい人々は非法法を承知で森林に入り込むだけである」。このような指摘は環境問題の研究に着手して日の浅い私たちにとっては、本プロジェクトに取り組む上で大きな励ましとなった。

本書は中国、アジアNIES、東南アジア、インド亜大陸、中東、アフリカ、そしてラテンアメリカの各地域を対象としている。第一章と第七章を除いて、各章は総論と各国編に分かれている。前者はその地域の環境問題の特徴を概観し、後者では国別の事情をそれぞれの書き手の関心に従って描写している。言うまでもなくすべての国、あらゆる問題を取り上げ得たわけではない。その内容もきわめて不十分なものである。構成もけつして十分にバランスのとれたものとはいえない。可能な限り気を配ったつもりではあるが、認識の誤りも少なからずあるに違いない。すべては力不足の編者の責任としてご了解いただきたい。ともあれ、私たちがこの問題に取り組んだ最初の成果であることをご理解の上、読者の忌憚のないご批判をいただければ幸甚である。

最後になったが、貴重なご教示を仰いだ所外専門家の方々、若輩の編者を支え共に研究会活動に携わり執筆をされた諸氏、さらに最大限の忍耐をもって編集・出版の労をとられた皆さんに厚く御礼申し上げます。

平成三年三月